

異年齢同士で多彩な体験 友情とリーダーシップがぐんぐん育つ

柳井第3団の主な活動拠点である「柳井市」は、山口県の南東部・瀬戸内海に面した温暖で自然豊かな過ごしやすいまちです。「市民の力で支えあい、一人ひとりが主役の笑顔あふれるまち柳井」を掲げ、魅力ある地方都市として発展を続けています。



昭和43年に発団した柳井第3団は、2023年度で55年を迎えます。現在のスカウト数は16名。指導者と団委員を加えると総勢27名です。4年に1度開催される、スカウトの全国大会「日本ジャンボリー」には、第5回から令和4年の第18回まで参加し、全国の仲間との交流を続けています。

心に残る活動を通じて、 大人も子どもも一緒に成長

柳井第3団は、市内のお寺「浄慶院」の前にあるスカウトハウスを拠点に、岩国市や田布施町など近隣地域でも活動しています。自然体験から奉仕活動まで幅広いプログラムがあり、しめ縄づくりやスキー教室など季節の行事も人気。子どもたちの自主性を尊重しながら、社会性、協調性、たくましさ、リーダーシップなどを育成しています。

ベンチャー隊長の宮本さんは、「息子が入団して数年、お手伝いから指導者になりましたが、教えたことよりも私自身が学んだことのほうが多いです」と語ります。スカウトと指導者が共に楽しみながら学ぶ姿勢が、柳井第3団のなごやかな雰囲気を作っているのでしょう。





活動体験と細やかな対応で魅力をアピール

PR活動は新年度早々に始まり、4月には学校で募集チラシを配布。5月には気軽に参加してもらえるよう、ロープワークなどの体験説明会を開催、6月には人気の活動で歓迎。「子どもも親も一緒に楽しんでもらう。それが参加のきっかけになることが多いですね」と指導者は話します。

体験会の参加者一人一人に細やかな対応ができる、少人数の団ならではの細やかな対応が魅力で、保護者に子どもの様子を聞いたり、思い切り楽しめるよう目配りできることが、入団につながっているようです。



農園でピザ作り！ユニークな活動が人気

柳井第3団の特徴的な活動のひとつ、「ピザ作り体験」。指導者の自宅の庭にある自作の窯で焼く手作りピザは子どもたちにも大好評。小さな農園もあり、春に植えたさつまいもを秋に収穫したり、燻製作りなどさまざまな野外活動を楽しんでいます。

前日からのキャンプ体験があいにくの雨予報で中止となりましたが、曇りがちだった空は徐々に気持ちよく晴れ渡りました。本日の活動は、まずはピザ生地をこねて発酵させ、その間に芋掘りを楽しみます。ピザ生地が十分に発酵した後は、生地をのばし思い思いにトッピングをしたピザを焼き、皆でピザランチを楽しみました。自分たちで収穫したさつまいもはお米と一緒に飯盒で調理され、出来上がった炊きたての芋ご飯は格別の美味しさだったのではないのでしょうか。

芋掘りからピザ作りまで、全力で楽しむビーバー・カブ隊、それをサポートするボーイ隊、見守るベンチャー隊、そして大人たちの笑顔がはじけます。

柳井市では、人口減少と少子高齢化が進んでいます。柳井第3団も影響を受け、それぞれのチームだけでの活動が難しいケースが出てきました。しかし、それが思わぬ効果も生んでいます。今回のピザ作りのように、異なるチームのスカウト同士が作業を分担し、団全体で触れ合いながら活動する機会が増えたのです。異年齢とじっくり関わる体験は、学校では得られないものですね。



幅広い友達とのつながりが団員増のきっかけに

2023年はカブ隊に2名、ビーバー隊に1名が新しく入団。地道な取り組みの成果に加え、コロナ禍を乗り越えて野外活動が再開されたことも大きいといいます。子どもたちが感じている満足感や充実感が一番のPRになっているのかもしれませんが、「口コミでの入団もあり、嬉しいです」と指導者。

活動に参加していた保護者からは、「私の住んでいる隣町にはボーイスカウトが無く、6年在籍していますが『友達と一緒に体験できる』ことが嬉しいようで、柳井第3団の存在がとても助かっています」と、話していただきました。

子どもの数が少ない中、学年や学校の枠を超えたコミュニケーションが地域の子どもたちにとって貴重な体験となっており、柳井第3団が地域に果たす役割は、ますます大きいものとなっているようです。